始

東京市公園課編纂

上野動物園案内

東京市役所

東京市公刊圖書
第十號
寄贈本

大正
14. 4. 27
寄贈

145-124

上野恩賜公園動物園案内目次

口絵……（動物園表門／園内水禽檻）

緒言……一

第一號　あうむ室……五

第二號　小禽室……六

第三號　雉室……九

第四號　鶉鷄類飼養室……九

第五號　鳥檻……一三

第六號　象室……一四

第七號　猿檻……一六

第八號　鹿柵……一六

第九號　獅子室……一八

第十號　馬室……二〇

第十一號　猿室……二〇

第十二號　羚羊室……二一

第十三號　鹿柵……二三

第十四號　猛獸室……二三
第十五號　觀魚室……二六
第十六號　鶴室……二八
第十七號　鶴飼養場……二八
第十八號　孔雀室……三四
第十九號　水禽檻……三六
第二十號　小水禽室……四四
第廿一號　小禽室……四八
第廿二號　禽室……五九
第廿三號　駝鳥類室……六三
第廿四號　河馬室……六七
第廿五號　暖室……六九
第廿六號　熊室……七三
第廿七號　かんがるう室……七三
第廿八號　駱駝室……七五
第廿九號　山羊棚……七七
第三十號　熊室……七七
第卅一號　小肉食獸室……七九
第卅二號　禽室……八二
第卅三號　猿室……八三
第卅四號　猿室……八三
第卅五號　猛禽室……八三

附錄

一、飼養動物分類表……八六
一、東京市上野恩賜公園動物園來觀人心得拔翠……一〇三
一、學校生徒等觀覽ノ際注意ヲ要スル事項……一〇五
一、動物園內案內圖

挿圖目錄

一、おほばたん　二、きじ　三、きんけい
四、からくんてう　五、たんちやう　六、いんどざう

附記……八五

七、ら　ま　　八、し　し　　九、の　る

一〇、し　か　　一一、と　ら　　一二、さんせうを

一三、べんぐいん　　一四、べりかん　　一五、爪哇くじやく

一六、ま　が　も　　一七、こくてう　　一八、こうのとり

一九、あをさぎ　　二〇、をしどり　　二一、ゆりかもめ

二二、こんごういんこ　　二三、ひくひとり　　二四、か　ば

二五、ながざる　　二六、おほかんがるう　　二七、ふたこぶらくだ

二八、く　ま　　二九、きつれ　　三〇、かささぎ

三一、おほわし

写真　園物動

龍崎水内園

上野恩賜公園動物園案内

緒言

上野恩賜公園動物園は、元宮内省の御所轄で帝室博物館に屬して居りました

大正十三年月廿六日皇太子殿下御成婚の當日その記念として、宮内省より東京市へ御下賜になつたものであります。

此動物園は明治十五年の創立でその頃は小規模のものでありましたが、爾後長足の進歩を遂げられて陳列生活物も漸次に殖え、現在の樣に道々と場所を擴げられて擴張せられたのでありますが、この後とても尚出來得る限り發展を期するのであります。

動物園の所在地は、上野恩賜公園の西の方に當つて居まして、往昔清水谷と唱へられた處で、東の方には東照宮が鎮座せられ、西と南は往來を隔てゝ下谷區の市街に續き、北の方は東京美術學校に隣合つて居ります。

出入の門は表と裏とにありますから、坂本、淺草、上野廣小路方面から、上野恩賜公園を通つて來らるゝ方は表門から、本郷、駒込、根津、谷中方面又は電車で不忍池畔の東照宮下電車停留場に下車した方は、裏門から這入るのが最も便利であらうと思ひます。

表門でも裏門でも、入口の側に入場券を賣つて居りますから、普通又は團躰の御方は、入場券をお求めになつたら、入口の守衛人にお渡しになれば、直に入場することが出來ますし、特別入場券御持參の方は、直に入場券を守衛

人にお示し下されば入場が出來ます。

また學校團躰は無料で入場が出來ますから、賣札所に立寄らず、直に出口の守衛人に申込み、學生觀覽証を請求すると、觀覽証と同時に入園の注意書を出しますから、指導者はその注意書を御一讀の上、學生に注意の趣意を訓示して、入口の方から入場せらるれば宜しいのであります。門を這入りますと案内として、園内陳列の生活物の所在を示した掲示がありますから、巡回する時に思ひ出せる樣に、ゆつくりと御覽になつたら宜しいと思ひます。

尙茲に申上げたいのは生活物の居所の番號順に見て廻るのには、表門から這入ると第一號から順々に見られる樣になつて居りますが、若し裏門から這入りますと第二十二號と第二十三號室との間に出ますから、其番號を遡つて見て頂

くか、又は順に見て頂くやうになつて居りますのと、それから今一つお斷りして置きたいのは、園内を見終りまして退園なさるのは、表門からでも裏門からでも御隨意である事であります。

表門を這入り案内の掲示を見てから右へ行くと、第一號あうむ室であります。

鶯鳴く野は花ならぬ草もなし　五明
驚に手まりつきやむ初音哉　也有
これも其子を尋ぬるか雉の聲　其角
行く雁や子と覺しきを先に立て　一茶
猟に進や絶ねけん鹿の聲　蕉太

第一號　あうむ室

おほばたん（大巴旦）がお竹さん、お竹さん、コケヤッコッコー、コケヤッコッコーなどゝ、鳴き立てゝ居る時があるかと思へば、ビーヨービーヨーと悠長に謠ふて居る時もある。これは一般にあうむと名付られて居るもので、南洋のモラ

おほばたん

ッカ群島の森の中に生活して居る鳥であります。この鳥はよく馴して教へ込むと、人の語や、鳥獸の鳴聲などを直に覺えて、愛嬌を振りまくやうになるもので、食物は穀物や果實を好みます。此室を見てから左へ行くと

第二號　小禽室

この室の中には、本邦産のもの、外國産の小禽が雜居で飼はれて居りますから、春になると音樂の合奏をする樣に、各種の鳥の鳴聲が非常な賑かさを漂はして參ります。

この室の中には、雜居して平和を保ち易いものばかりを放ちますから、平素大抵左の種類のものが入れてあります。

きんぱら　（金腹）
あみばら　（綱腹）印度産
へきてう　（碧鳥）マラッカ産
さうしてう　（想思鳥）印度及び南部支那産
じうしまつ　（十姉妹）
かなりや　（金糸雀）カナリー島
めじろ　（繡眼兒）本邦産
おほましこ　（大猿子）本邦産
まひわ　（眞鶸）本邦産
おほかはらひわ　（大河原鶸）本邦産

ぶんてう　（文鳥）　爪哇産
ほゝじろ　（頰白）　本邦産
あをじ　（蒿雀）　本邦産
のじこ　（野路子）　本邦産
ひばり　（雲雀）　本邦産

が主なるもので此外に

ちゃうしゃうばと　（長嘯鳩）
せきせいゝんこ　南オーストラリア産
うづら　（鶉）　本邦産

などを入れることもある。そしてこの中には穀物と菜又は摺餌を與えて養ふも

のとがあります。此室を見てから左へ行くと

第三號　雉室

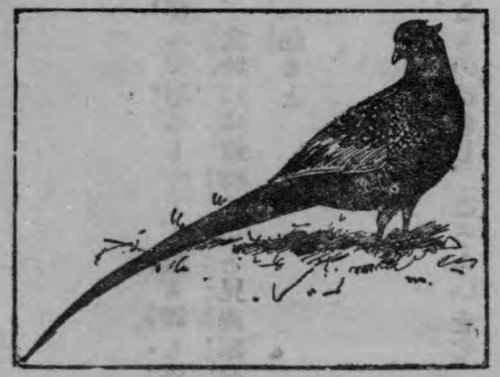
さんけい　が居る、この鳥は臺灣の高山に棲んで居るもので、雄も雌も外貌の立派な鳥で、毎年此室の中で繁殖致します。食物には穀物と菜と昆蟲類を與ふれば良いのであります。此室を見てから左へ曲ると

第四號　鶉鷄類飼養室

此處は主に雉や雞類を放つ所です。いま居るものはきじ、こうらいきじ、はくかん、きんけい、やまどり、からくんてうなどであります。

きじ（雉）は日本に居る鳥で、皆さん能く御存じのことゝ思ひます。此鳥は地震の揺る前に必ず鳴くと云ふことを傳へられて居りますが、實際に雉の雄は、吾々が地震を感ずると同じ時に、ケン、ケン、ケンと續けて鳴きますことは、動物園でも常に認めて居りました。

こうらいきじ（高麗雉）主に朝鮮に棲んで居りますが、日本の一部にも棲んで居ります。



じ　き

はくかん（白鵬）は支那産の鳥で、きじよりも少し大型で雄は仲々奇麗な鳥であります。

きんけい（金鷄）も支那の鳥で、俗に**きんけい****てう**は唐の雞と唱へ、雄の羽は赤色、黄色、黒色などで彩られて居りますから、實に美しい鳥であります。一体に雉の類は、雄の羽は奇麗でありますけれども、雌の羽には雄のほど奇麗なのはありません。

やまどり（鶯雉）も日本産の鳥で、これもあつさりした美しい羽の鳥で、雉と同じく長くて美しい尾を持つて居ります。

（雄）いけんき

からくんてう（吐綬雞）一名**しちめんてう**

これは元亞米利加に野生して居たのでありますが、今日では野生のものは殆ど無くなりまして、却て家禽として種々の變種が出來て居ります。今ここには白色と灰色のものとが飼つてありますが、何れも顔から頸にかけて皮の色が、時々變るので持て囃されることは皆さん御存知のことゝ思ひます。これから左へ、閑々亭と稱する古い建物の前を通つて更に左へ小坂を下りると

うてんくらか

第五號　鳥檻

たんちやう（丹頂）が飼はれて居る。**たんちやう**は西比利亞の東の方から朝鮮邊まで來まして、秋、冬の頃になると、支那、日本にも渡りましたもので、我邦では、**につぽんづる**と稱へて名高いものであつたのですが、殘念ながら餘り狩獵が劇しくなつたために、

うやちんた

日本へ渡つて來ることが殆ど無くなつたが、僅に山口縣下と鹿兒島縣下とに、**たんちやう**の外に**まなづる**、**なべづる**などの渡つて來る處がある。**たんちやう**は鶴の中で一番美しい鳥で、食物には籾と泥鰌を與へれば飼へるのであります。この檻を見たら右へ進み、更に右に折れて小橋を渡り大きな建物の前へ進んで行くと

第六號　象室

いんどざう（印度象）は牝牡二頭で、大きい方が牡で小さい方が牝なのであります。どちらも幼年で至つて可愛らしい動物であります。

ざうは世界の陸上に棲んで居る動物の中で、一番大きい獸で、極古い時代に

は種類も多くあつて、歐羅巴にも居り、また日本にもその一種が居りましたので、今でもその化石が時々堀出されますが、當今では**いんどざう**と**あふりかざう**の二種がその原產地に活き殘つて居るばかりであります。

ざうは悧巧な動物でありますから、飼ひ馴らして農業の補助や、重量のある木材や石材のやうなものを動かしたり運搬したりするやうな力業をさせたり、また種々な藝を仕込んで興行用に使はれるのもあります。

うぞどんい

食物には甘藷、馬鈴薯、煮たる米、麥、草、葉などを與へて居りますが、身躰の大きい動物ですから、食物も澤山に與へねばなりません。

ざうを見てから、其室の左へ廻り、象室を後にして左へ登る路がある、この路を登り詰めて斜に右へ行くと第七號室の前へ出る。

第七號　猿　檻

ぶたをざる（豚尾猿）は南洋產で、その尾は短くて細く恰度豚の尾に似て居ますから、ぶたをざると云ふのであります。食物には根菜や果物を與ふれば良い。次は

第八號　鹿　柵

此の棚内には、らま、すいろく、ぬのしゝなどが居る。

らま　は一名ありからくだと云つて、南亞米利加に產するものであります。普通のらくだより小型で、また背の上の瘤も無い、原產地では、これを家畜として山道などの小荷物運搬に使はれる重寶な動物である。毛色も種々でここに居るやうな淡黑色や、褐

ま　ら

色、白黑の斑などのものもある。食物には、麥を與へて居ます。

すいろく（水鹿）臺灣產で稍大型の鹿であります。角は日本產の鹿に比べると太く短く、毛は濃栗色で水邊を好む鹿であります。食物には雪花菜や根菜を與へれば良いのです。

ぬのしゝ（野猪）日本產で牝ばかり二頭居ます。牝の牙は牡のやうに發達しませぬから目に立ちません、**ぬのしゝ**は雜食獸でありますから、食物には嫌ひなものが殆ど無い。この室を見てから左へ行くと

第九號　獅子室

しゝ（獅子）英語に「ライオン」と稱するもので、亞弗利加に產し、百

獸の王と稱へられるものであります。大正八年九月京都市記念動物園に生れた牝牡で、鬣のあるのが牡で、鬣の無いのは牝である。二頭の兒は大正十二年十一月當園で生れたもので產れながらにして、顏や四肢に淡黑色の斑が著しく現れて居る。けれども、成長するに從つてその斑は無くなつて仕舞ます。

しゝは大きな聲を出して吼へますが、牡の聲は牝の聲よりも音が太くて鋭いから、此處で吼へ出しますと、本鄕の大學あたりまでは

し　し

手に取るやうに聞へるそうであります。

しゝは肉食獸でありますから、飲食物として牛乳や獸肉を與へて居ります。

此處を見終つて左へ行くと

第十號　馬室

うさぎうま（驢）が一頭居ます。これは支那産の馬で普通の馬に比べるとその躰格はずつと小さいけれども、耳ほうさぎの耳に似て長く、坂道などでも人を騎せて達者に歩くことが出來るのであります。この室の次は

第十一號　猿室

さる（獼猴）この室に居るのは日本猿で秩父の産であります。その顏の赤いのは此さるの特徴で、歐羅巴の人でも、日本の美しい赤顏の猿と唱へて珍重して居る。食物は第六號室に居るぶたをざるとと同じ物を與へます。此室から左へ進みますと

第十二號　羚羊室

れいやう（羚羊）が一對居ります。これは印度の原野に居つて植物により生活して居る動物で、牡には枝の無い捻れた黑色の角があるけれども、牝には角が無い。食物には雪花菜と根菜類を與へて居ります。

のる　一名のろ　は朝鮮に産する鹿の類で、毛色は黃褐色で角があるけ

れども、日本鹿の樣な立派な角では無い。能く人に馴れるもので、これも反芻獸である。食物は鹿と同樣のものを與へて居ります。

第十三號　鹿柵

くわろく（花鹿）は臺灣の産で日本鹿位の大きさで、背には判然とした花

る　の

紋狀の白班があるから、臺灣ではこれを花鹿と稱へて居るのであります。食物には甘藷や雪花菜を與へて居ます。

しか（鹿）は本邦産で金華山の産である。本邦の鹿は北海道から本州、四國、九州の山地に棲んで居るもので、この鹿類は順鹿と違つて牝には角が無いのであります。食物は花鹿と同樣で、よく昔から歌などに詠込れて居る動物であります。此室を後にして前進すると

第十四號　猛獸室

か　し

この室内には**とら**、**へう**の二種が養つてある。今この配置の順に從ひ擧げて見ると左の通である。

とら　の牝が一頭居る。**とら**は亞細亞の中、支那滿洲、朝鮮、西比利亞、印度、爪哇等に產するもので、叢林、原野、沼澤地、岩窟等の嫌ひなく、或は壞れたる建物の中などにも棲んで居ることがあります。而して南方の暖き地方に棲んで居るものは、北方の寒い土地に棲んで居るものよりも、その毛色が美しくて、且つ短いのでありますが、北方の寒い土地に產したものは、その毛が緻密に生えて居るから

と　ら

防寒用としては此方が價が高いのであります

へう（豹）は亞弗利加、亞細亞、印度、朝鮮、滿洲、南洋諸島に產するもので、その產地の違ふに從つて毛色の相違がある。

くろへう（黑豹）の牝が一頭居る。このへうは普通のへうの變種で、馬來半島ジョホール國の產である。此へうは同地で日本人の經營して居る護謨殖林地に出沒して、夜になると時々家禽を掠奪し、又は喰殺すことがあつたので、遂に生擒にせられたものである。よく見ると普通のへうと同じ樣に、梅花形の班點が、背や胴に浮織のやうになつて見ゆるものである。

へうは何れも樹木に昇ることが出來るから、とらやしゝよりも一層危險な動物であります。

以上の猛獸類は、食物として牛乳や、鳥獸肉を與へて居ります。この猛獸室を後にして右へ小坂を下りると、觀魚室入口の隧道の前へ出る。

第十五號　觀魚室

此觀魚室の水槽の中には

ふな（鮒）　本邦産

きんぎよ（金魚）　本邦産

こひ（鯉）　本邦産

どいつごい（獨逸鯉）

などが居る尙この外に

さんせううを（鯢魚）

一名はんざきが居る。さんせううをはかへるやゐもりの樣に、水と陸とに棲むものでありますから、兩棲類と云はれて居る。古代の動物として世界に名高いものでありますが、今日その生存して居るものは本邦中國の山間溪谷と、支那の一

さんせううを

部に産するのみで、その大きなものになると、大凡五尺の長さに達するものがあると云ふことであります。食物は泥鰌を與へて居る。この室を見てから外へ出ると

第十六號　鶴室

たんちやう（第五號室記事參照）

第十七號　鶴飼養場

この場内に鶴の類には、**たんちやう**、**くろつる**、**おーすとらりあづる**、**あねはづる**、その他水禽類には、**べんぐいん**、**べりかん**、**おほせぐろかもめ**、爬蟲

類には、**かめとわに**が寄留して居ります。

この飼養場を見るには、左へ左へと一週するのが順序であります。

たんちやう（第五號室記事參照）

くろつる（玄鶴）は歐羅巴及び北部亞細亞に産するもので、**たんちやうよりは小さく**、羽の色は頸は黑く、背の羽も黑みを帶びて居て、胴の羽は淡灰色であります。

おーすとらりあづる（濠太剌利亞鶴）は**オーストラリア**固有の鶴で、羽色は濃灰色で、咽喉の所に僅に黑色の部分があるのと、頸の上の方に赤色の皮膚が裸出して居ます。

べんぐいんは南半球の海洋に棲むもので、南米智利の**イキケ**海岸で捕へら

れたものであります。その種類は十六種もあつて、大型のものになると、その高さが四尺、重量が拾貫匁以上もあるものがある。本園に飼つてある種類は南半球の、温帶海岸まで遊びに來るもので、全身の羽毛は短いけれども緻密に生えて居て、翼は小さく、脚は太く短くて蹼が付いて居る、水中に這入ると小さな翼で、巧に游いだり潜つたりしながら游泳する魚類を捕へて喰うのであるが、水を離れて陸上や岩石に登ると、直立の姿勢を執つて蹌踉として進み行くので何時もその翼は人が腕を垂れて居る樣に見ゆる滑稽な姿の鳥である。食物には

んいぐんぺ

海產の魚類を與へて居る。

おーすとらりあ・ぺりかん はオーストラリアの產で、**ほわいと・ぺりかん**は南西歐羅巴の產であります。この鳥の性質は何れも同樣で大きな嘴を水の中に入れて魚を掬ふと、下嘴の方に付いて居る皮の膜が、袋のやうに膨れますから、口の中へ澤山に魚を掬ひ込むことが出來るから面白い。それから上下の嘴を締めると、自然に皮の膜が縮んで、口の中の水が絞り出されるから

んかりぺ

その時初めて口の中の魚を嚥下すのであります。

おほせぐろかもめ が一羽**べりかん**と同居して居ります。このかもめは西比利亞から日本に産するもので、眼付きの可愛らしい鳥であります。

鶴の類の食物には、泥鰌と籾を、**べりかん**、**おほせぐろかもめ**には泥鰌を與へて居ます。

あめりか、ありげーとー は北亞米利加に産する鰐魚で、**ミスシッピー**河畔に棲んで居まして、成長すると、その長さが一丈六尺位になりますので、その産地では澤山養つて置いて、其れが成長するとその皮を採り鞣革として、種々の袋物や、鞄を作るのに用ひられるのであります。

しな・ありげーとー は支那の楊子江に産する鰐魚で、**ようすこう・ありげー**

とーとも云はれて居るもので、成長すると、六尺位の長さになるのであります、食物には主に泥鰌を與へて居りますが、これも夏だけのことで、寒くなると冬眠と申しまして、全く眠つたやうな姿で運動もせず食物も食べなくなるのであります。

やまがめ（秦龜）は日本の中國より畿内に野生して居るもので、支那産のものも居る。頸を見ると淡綠色や、黄綠色の縱縞がありますから直に分ります。

いしがめ（水龜）は日本固有の龜で、淡水に棲んで居り、頸には**やまがめ**の様な縱縞がありません。

りうきう・はこがめ 琉球や臺灣に産するもので、頸に黄色い縱縞がある、

背の甲が篋まつて居りますので、幾分か箱のやうに見ゆるので、はこがめと云はれるのであります。

かろりな・はこがめ　は北亞米利加に產し、背の甲の構造も、前のものに良く似て居るけれども、甲に現はれて居る淡黃色の小さい斑點は、この龜の特徵であります。

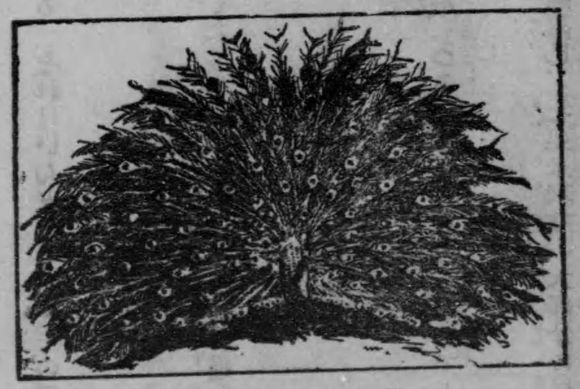
わにやかめの食物には肉類を與へて居ります。かめもわにやかへると同じやうに、冬になると冬眠致します。この檻を見てから、斜に左方へ前進すると

第十八號　孔雀室

くじやく（孔雀）　これは交趾支那、馬來半島から爪哇島に居るもので、普

通じやば・くじやく又はまくじやくと唱へられるもので、非常に美しい羽の持主である。雄の簑羽は非常に長く伸びて、毎年三四月頃から六七月頃までは、歩みながら盛にこれを起てゝその美しさを誇るものである。

いんど・くじやく（印度孔雀）　印度に產するもので、日本では俗にほうわう・くじやくと唱へて居る。じやば・くじやくに比べると、その羽に優劣はあるけれども、何れも立派なものである。



爪哇くじやく（雄）

以上の外に白色の羽を持つて居るものがある。それはいんど・くじやくの變種であります。

食物には穀物、菜、昆蟲等を與へれば良い。

この室の前を見たらば後へ廻り、見終りましたら、此室を後にして前に進むと丸形の鐵柵がある。

第十九號　水禽檻

この檻の中に養つてあるものは、各種の水禽、つる、さぎ、うみうなどであつて、これを擧げて見ると

まがも　一名**あをくび**（鴨）は亞細亞、歐羅巴、北亞米利加の大部分に居

る鳥で、冬になると南の方へ渡つて行く鳥であります。

かるがも（夏鴨）は東部亞細亞、日本、南は印度、**セイロン**等に棲んで居るもので、**まがも**ほど奇麗な鳥ではありません。

よしがも（葭鴨）は亞細亞及び日本にも產するもので雄の羽は奇麗なものであります。

をながゝも（尾長鴨）は歐羅巴、亞細亞、亞米利加等の北部に產し日本にも棲んで居る。

あひる（家鴨）は**まがも**を飼馴して出來たもので、その卵や肉を採るため

まがも（雄）

に澤山に飼養はるゝものであります。

まがん　一名**かりがね**（雁）は歐羅巴、亞細亞の大部、亞米利加等が產地であつて、冬になると南の方に渡るから、日本にも來る樣になるのであります。

ひしくひ（鴻）は東部西比利亞に產するもので、冬になると日本へも渡つて來るもので、**まがん**よりは、ずつと大きく、嘴は黑色で、その中程が黃色の斑で橫切られて居ります。

えんぶてんがん　は歐羅巴殊に以前は獨逸で、盛んに養はれたもので、**がてう**に似て居るけれども、嘴の附根には**がてう**のやうな瘤が無いのであります。

まだらがん（斑雁）は**オーストラリア**及**タスマニア**に產するもので、嘴は青黑色で割合に長く、その脚も亦長い、羽は大躰黑白の斑で、普通の**がん**とは

餘程風采の違つて居る珍しい鳥であります。

いんどがん　は中央亞細亞に產するもので、冬になると印度地方にも來る鳥でありますから、この名が付けられて居ます。頭は白色で、頸の後の方に、淡黑色の二本の橫筋と、頸の兩側には淡色の縱縞があつて、背や腰の色は、淡灰色であります。

はくてう（鵠）は北東歐羅巴と北部亞細亞に居るもので、冬になると日本に渡つて來る、**まがん**より大きくて、頸の長い白い鳥である。

こくてう（黑鳥）は南**オーストラリア**と**タスマニア**に產するもので、羽色は煤色を帶びた黑色であるが、風切羽には白い處があつて、上嘴は美しい紅色である。

うみう　一名**しらがう**　とも唱へ、世界の大部分に居る鳥で、日本にも至る所に棲んで居ります。また鵜飼と申して、河の中の魚を捕へるのに使ふのはこの**うみう**ではありませんで、**かはう**と云ふ方を使ふのであります。

まなづる（眞鶴）は東部亞細亞に產するもので、**たんちやう**よりは小型である。顏の側面の皮膚は赤色で、羽は濃い灰色であります。

うてくこ

なべづる（鍋鶴）は西比利亞より滿洲邊に產するもので、**まなづる**より餘程小さい鶴で、羽は淡黑色であります。

こうのとり（鸛）は東部西比利亞、朝鮮日本に產するもので、いま此處に居るのは、秋田縣下で捕へられたものであります。嘴は**たんちやう**や**まなづる**

りとのうこ

よりも長く、眼の周圍には赤色の皮膚がある。羽は大躰白色で、風切羽には黑色の處がある。この鳥は明治の初年頃までは、日本に澤山居たけれども、今では殆ど居なくなりました。

こさぎ（鷺）は南歐羅巴、中央及南部亞細亞、亞弗利加等に棲んで居るもので、この檻の中でも毎年五六月頃になると、松の枝へ巢を造る有樣や、その雛を育てるのを見る事が出來るのであります。又**こさぎ**の背の上に生えて居る簑羽は、帽子の飾りなどに貴ばれるもので、頗る價の高いものであります。

ごゐさぎ（鍋冠）は**ほしごゐ**又は**せぐろごゐ**とも云はるゝもので、歐羅巴亞細亞、亞弗利加の大部分に產し、日本にも棲んで居る鳥であります。この檻內で**こさぎ**と同じやうに、松の枝の上に巢を造つて、雛を育てるのを見られま

す。又**ほしごゐ**とは、幼い頃にはその羽毛に白い小斑があるから名付られたもので、それが三年位後になると、羽毛の色が全く變化して、淡青みを帶びた黑色となり、頭の方は背よりもその色が濃くなつて、頭の後から長い飾毛が垂れて來る、この時代を**せぐろごゐ**と唱へるのであります。

ごゐさぎ

あほさぎ（蒼鷺）はみとごゐ又はみとさぎとも唱へ、せぐろこゐより遙に大きく、歐羅巴、亞細亞、亞弗利加等に擴がつて棲んで居るもので、本園に飼つてあるのは朝鮮產であります。以上に述べてあるがん、かも類の食物には稗と菜、つる各種の食物は籾と泥鰌で、うみう、こうのとりその他のさぎ類には泥鰌を與へて居ます。此の次は、この大鳥檻の西の方にある八角形の小水禽室であります。

第廿號　小水禽室

ともゑがも（巴鴨）は西比利亞に產するもので、冬になると日本へも渡り來るものである。雄は頰の兩側に樺色の羽で、二つ巴の模樣を現はして居るか

ら直ぐ分ります。

よしがも（第十九號室記事參照）

をしどり（鴛鴦）は東部亞細亞に產するもので、日本にも棲んで居る。雄はかも類の中で一番奇麗なものである。

ひどりがも　一名あかがしら　は歐羅巴に棲んで居て日本にも來る鳥である。その雄は頭に栗赤色の羽毛があるから、あかがしらの名が付いて居るのであります。

こがも（小鴨）は歐羅巴、亞細亞に棲んで

をしどり（雄）

居るもので、かも類中の小型のものである。

ゆりかもめ（百合鷗）は歐羅巴、亞細亞に產し、日本に在つては北海道以北の地に產し、冬になると、その頭の羽色が白くなり、夏になると、頭巾を被つたやうに黑色に變化するものであります。

うみねこ（海猫）これは支那海、東西比利亞から日本にも產する鷗科の鳥であつて、ゆりかもめより大型のものであります。

さゝごゐ　一名**みのごゐ**　は東部亞細亞、日本フヰリッピン、爪哇等に居るものでせぐろごゐよりも餘程美しい鳥である。

ゆりかもめ

あねはづる（姉羽鶴）は歐羅巴、西比利亞、中央亞細亞邊に棲むもので、鶴類中最も小型のものである。嘴は蒼黑色、脚は黑色で、羽毛は頭の兩側と前の方は黑色で、背や腹は青灰色である。又眼の後から頭の後に向つて靡ける白色の小羽や、胸の前に垂れて居る黑色の羽、腰に延びたる灰黑色の簑羽は、何れもこの鶴の立派な飾りである。

こばん（小鷭）は歐羅巴、亞細亞、亞弗利加及び日本の各地に棲んで居て羽毛は頭黑く腹は淡黑色である。この鳥の冠や嘴は、平生は蒼黃色でありますが、毎年四五月頃になるとその冠や嘴は特に赤色を呈して來る。

せいけい　は支那、印度、フヰリッピン、日本にも棲んで居るもので、形貌はこばんに似て居るけれども更に大きく、羽の色は、背に在ては黑く、咽喉下

より胸の邊は青く、額の裸出せる所から嘴までは赤色で、脚も亦赤く、その脚と趾は割合に長い鳥であります。

此二十號室内に居る**かも**類の食物は稗と菜、**かもめ**類及び**さゝごゐ**には泥鰌のみを與へ、**あねはづる**以下のものには、稗と泥鰌を與へて居るのであります

この水禽室を一週してから、その北寄の練瓦造金網張の中を見るのが順序である。

第廿一號　小禽室

きばたん（黄巴且）は**オーストラリヤ**に産するもので、明治三十三年に、同洲の**メルボーン**動物園から贈られたものである。この鳥が物に興奮すると、

頭にある黄色い冠羽を起てゝ、鋭い聲を發するものでありますが、その黄色の冠羽は、この鳥の靜まつて居る時には見へないのであります。頭の上の冠羽を起てるのは大巴且や、大白鸚鵡、車冠鸚鵡、小巴且なども、皆同じ樣なのであります。

こばたん（小巴且）は**こはくいんこ**とも云ふて居る。**セレベス、モラッカ**島に産するもので、全身白色でありますが、冠羽と眼の下と上嘴の附根には黄色な所がある。

たいはくあうむ（大白鸚鵡）は**モラッカ**島に産するもので、如何にも**おほばたん**に良く似て居るけれども、**たいはくあうむ**の冠羽は白色の無地で朱鷺色を帶びて居らないのであります。

くるまさかあうむ（車冠鸚鵡）は南**オーストラリア**に産するもので、冠羽を起てると、美しい桃色の部分が現はれる。**こばたん**位の大きさで大躰白色の羽であります。

だるまいんこ（達磨鸚哥）は印度の**ベンガル**より、交趾支那等に産するもので、嘴は赤色、眼と眼との間及び咽喉下は黑く、胸は淡赤色で頭は淡藤色、その他は大躰綠色である。この鳥の頭と顏の處を前の方から見ると、達磨に似て居るやうに見へるのでこの名があるのであります。

ほんせいゝんこ（本青鸚哥）は交趾支那の産である。

づぐろ・ごしきせいがいゝんこは**セレベス**島に産するもので、**こせいがいゝんこ**と同大である。羽毛は黑、紺黑、黃色、赤、赤に黑、綠色等のもので

彩れて居る美しい鳥であります。

づぐろごしきいんこ（頭黑五色鸚哥）**ニューギニア**に産するもので嘴は赤く、羽毛は黑、赤、紫黑、青色などに彩れて居る美しい鳥であります。

づぐろいんこ（頭黑鸚哥）は**アムボイナ**の産で**ごしきせいがいゝんこ**より幾分小さく、嘴は赤黃色で、頭は黑く、肩は金綠色、その他は鮮紅色で美しくて鳴聲の非常に賑かな鳥であります。

ひいんこ（緋鸚哥）は**モラッカ**に産するもので、**ごしきせいがいゝんこ**より稍小さく、嘴は淡青色で、羽毛の大躰は赤色で、翼と尾には瑠璃色と黑色の羽のある頗る美しい鳥であります。

せうぜういんこ（猩々鸚哥）**モラッカ**群島に産するもので、嘴は赤く、全

身紅色で、背には黄色の月の輪斑を有し、翼と腿の部は緑色、翼角は黄色であります。

あかぼうしいんこ（赤帽子鸚哥）は南亞米利加の**ブラジル**に産するもので その名の示すが如く頭が赤い、尙肩と膝にも赤色の羽はあるが、その他は緑色であります。

わたぼうし・みどり・いんこ（綿帽子緑鸚哥）は南亞米利加の**エクアドル**に産するもので、羽毛は緑色が主で、額、頸、咽喉等は蒼白色で小型のものであります。

さめくさいんこ（褪草鸚哥）は**オーストラリア**に産するもので、羽色の美しい鳥であります。

せきせいゝんこ　**オーストラリア**に産するもので、腹は緑色、翼の部は緑黄色で、背や翼の上に黑點のある小形の鳥で、日本でも能く繁殖するものであります。

かるかやいんこ（刈萱鸚哥）は**マダガスカル**島に産する小形の鳥で、羽毛は大抵緑色であるけれども、雄の頭は銀灰色である。

めきしこいんこ（墨西哥鸚哥）は**メキシコ**に産するもので、羽毛は緑色が主で、上嘴の根元には帶黄赤色の部分があります。

たいくわんてう（大官鳥）は支那、**ブルマ**等に産するもので、**ひよどり**位の大きさである。顏と咽喉の部は黑く、兩眼下に指頭大の白斑があります。その他の羽毛は大概淡灰黑色である。

ごしきどり（五色鳥）は臺灣の産で、**むくどり**位の大きさである。羽毛は概ね綠又は綠黃色で、頂と襟の綠色の羽の間には赤色の羽があつて、兩頰より咽喉の處は青色であります。

おほはなまる（大花圓）は支那南部から印度に産する鳥で**むくどり**よりは大きい、頭と腹は白く、頸の周圍は黑く、背は淡黑色の地に白色の小斑があります。

こくまるがらすは西比利亞、滿洲、支那、朝鮮等に多く産するもので、日本には割合に少ない。**かさゝぎ**位の大きさで、恰好もそれに良く似て居ります。

かしどり（檀鳥）一名**かけす**は日本の鳥で、羽毛は大躰葡萄色でありますが、雌と雄と比べると雄の方が立派である。この鳥は自然に他の鳥の鳴眞似

などをするもので、飼ひ馴らすと、人の語や、獸の啼聲などを眞似るやうになるものもあります。

るりかけす（瑠璃掛子）は琉球の奄美大島の特産で、普通の**かけす**より稍大きく、額と咽喉部は黑く、羽毛は瑠璃色の部分の多い奇麗な鳥であります。

わうてう（黃鳥）一名**こうらいうぐひす**は印度より、支那、臺灣、日本に在ては九州に棲んで居るもので、背、胸、腹等の羽毛は、大抵黃色で、翼と尾は黑色であります。

きうくわんてう（九官鳥）は支那、印度、馬來等に産するもので、美しい光澤のある黑色の鳥である。飼ひ馴らすと物眞似聲を能く覺ゆるから、好んで人の飼ふ鳥であります。

しろはら（白腹）亞細亞産の鳥で、背は褐色を含んだ鶯色で、腹は背の色より淡く、尻の方は白色であります。

あかはら（赤腹）本邦産の鳥で、羽毛は概ね帶褐橄欖色で、躰の兩側は狐色である。

まみちゃじない 亞細亞に産する鳥で、**あかはら**に良く似て居りますが、この鳥の方が色が淡くて、顔に白色の眉形の斑があります。

くろつぐみ（黑鶫）は 本邦産で、羽毛は黑色、胸腹部には白色に黑點があります。

めじろちめどり（目白知目鳥）は臺灣特産の鳥で、羽色は大体黄褐色、眼の周圍にはめじろの様に白い環があります。

みゝじろちめどり（耳白知目鳥）これも臺灣特産の鳥で、羽毛は大体黄褐石磐色で、眼先や、眼の周圍と耳の上部は白色であります。

しろがしら（白頭）支那から臺灣に棲んで居る鳥で、**ひよどり**より小さく頭上は黑色、後頭は白色で、その他の部分は暗灰色に橄欖色を帶びて居ります。

たいわんひばり（臺灣雲雀）これも臺灣特有の鳥で、内地産の**ひばり**に良く似て居りますが、嘴は少し長い。

くろひよどり（黑鵯）は臺灣と海南島に産する鳥で、嘴と脚は赤く、羽毛は黑色で、背と腹の上部は綠色である。

おほきんくわてう（大錦花鳥）は濠洲に産する文鳥位の大さの鳥で、背

は灰色、胸より横腹にかけては黒地に白い斑紋があつて、腰の邊には赤色の羽が少しばかり見へて居る。

こうくゎんてう（紅冠鳥）は南亞米利加に產するもので、**おほきんくわてう**より稍大きい鳥である。頭部から喉は赤色で胸の方は白い、この赤い部分と白い部分は頸の側部の黑色の線によつて境界されて居る。この鳥は頭上に毛冠があつて其啼聲も良いものである。

べにすゝめ（紅雀）は印度、交趾支那、**シアム**及び其他の馬來諸島に產する小型の鳥で、嘴は赤く、羽毛は淡黑色で、雄には肩の邊に赤い小斑のある可愛らしい鳥であります。

この十九號室にあります鶸哥類の食物は穀物が主でありますが、中には砂糖

果物を與へるものも居る、それから**たいくゎんてう**以下、**くろひよどり**までのものには摺餌を與へ、**おほきんくゎてう**以下の鳥には穀物を與へて居ます。

此室を見終りてから右へ進むと、小さな池の緣を通り次の禽室の前へ出る。

第廿二號　禽室

はくかん（第四號室記事參照）

やまむすめ（山娘）は臺灣の特產で、**かけす**より稍々大きい鳥でその尾も長く、嘴と脚は赤色で、頭の羽は黑く、背と腹は青色で、尾の表面も背中の色と同じで奇麗な鳥である。

をなが（大和鵲）は東部西比利亞から、支那の北部、本邦等に居る鳥で、

ひよどりより大きく、尾が長い、頭は黒く、その他の羽は概ね淡青色であります。

うづらちゃぼ（鶉矮鶏）これは土佐で出來る鳥で、日本の名産物の一つであります。その尾が普通の**ちゃぼ**のやうに延びないのが、この鳥の價値で後から見ると、**うづら**のやうな尾の形をして居るのであります。

いんど・くじゃく（第十八號室記事參照）

さけい（沙鷄）は露國の南部から、支那北部邊に居る鳥で、鳩位の大きさである。大躰鈍銹色の羽毛で黒色の小斑がある。尾は長く丈は低くて、脚と趾とには細かい羽が密生して居ります。この外に

ぎんばと　臺灣產

ちゃうしゃうばと（長嘯鳩）馬來半島產

きじばと（雉鳩）本邦產

れんじゃくばと（練雀鳩）濠洲產　などが雜居して居るのと、**いんこ**類の雜居もある。

いんこ類には

こんごういんこ

（金剛鸚哥）

は中央及び南亞米利加に產するもので、その尾は鸚哥類の中で一番長いも

こんいうごんこ

のである、頭、肩、腹、尾は青色、胸、腹は黄色で、咽喉部は黒色であります。

おかめいんこ（片福面鸚哥）はオーストラリヤに産するもので毛冠があります。羽毛は雄の顔は黄色であるが、雌には黄色い部分が少ない。眼の後には赤斑があつて、胴は大概濃灰色で、日本でも繁殖し易い鳥であります。

もゝいろいんこ（桃色鸚哥）これもオーストラリアの産で、頭は淡桃色、頸と胸と腹は桃色であります。

おほゝんせいゝんこはセイロン島に産するもので、羽毛は大体緑色で、頸の前にある黒色の横線と、頸の後にある薔薇色の横線とが、頸の両側で出遇つて頸輪の形をなして居るから、**わかけほんせいゝんこ**とも云はれて居ます。

てんぢくねづみ（天竺鼠）は南亞米利加に産するもので、兎よりも小型の

耳の短い動物である。毛色は白、黑、赤褐等のものが多く、又このてんぢくねずみのことを、俗にもるもっとと云ふて居りますけれども、眞のもるもっとは違ふのであります。

上記鳥獸類の食物は、**やまむすめ**及び**をながにはつ**餌を與へ、**ちゃぼ、くじゃく、さけい、はと**及び**いんこ**類には穀物と菜を與へ、**てんぢくねずみ**には雪花菜や根菜類を與へて居る。

此室を見終り前進するとその突當りが

第廿三號　駝鳥類室

だてう（駝鳥）はアフリカとアラビアの、一部とに産するもので、鳥類中

の一番大きなものであります。雌の羽は灰色で雄は黒色でありますが、その翼の羽はどちらも白色であります。この鳥は走ることが疾いので、騎馬で追つかけても、客易に追付くことが出來ないと云ふ程であります。又翼は僅に形を遺して居るだけですから、飛ぶことは出來ないのであります。かやうに飛ぶことが出來ないけれどその代り脚が太くて丈夫でありますから走ることが疾いのであります。この鳥の翼や尾にある羽は、帽子、襟卷其他加工して衣服などの飾にも貴ばれるので非常に高價なものであります。

このだてうは収客してから卵を産みましたが、その重みは一個四百匁以上でありますから、普通鶏卵の約三十個分に當ります。白色でイナメル性の光澤のある美しいものであります。

ひくひどり（食火鶏）**オーストラリア**の産で、大きな角質の冠を頂き、頸の皮膚には、青色や赤色の彩がある。羽は黒色であるけれども、幼鳥時代には黄褐色を呈して居ります。翼は發育が不完全でありますから、飛ぶことは出來ませんが、その代り走ることは達者でありますから、自然その脚も丈夫に出來て居るのであります。

えみう（鴯鶓）これも**オーストラリア**産で、

ひくひどり

ひくひどりよりは寧ろ駝鳥に良く似た鳥でありますから、この鳥のことをおーすとらりあ駝鳥と稱へる人もあります。羽毛は濃灰色で、翼と脚はひくひどりと同樣である。

からくんてう（第四號室記事參照）

ほろほろてう（珠鷄）は亞弗利加產で、昔は歐羅巴の諸國に養はれたもので、其後亞米利加へも持行かれて、西印度諸島の野生となつて殖えたものもある。羽毛は全身青灰色に白い小紋があるので、美しい鳥ではあるが、雄の鳴聲は季節により非常に喧しいものであります。

上記鳥類の食物は、だてう、ひくひどり、えみうには米や甘藷の煮たものと青菜を、からくんてう、ほろほろてうには雉類と同じやうに、穀物や青菜を與

へて居ります。次は

第廿四號　河馬室

かば（河馬）は亞弗利加の湖水や、河水の中に棲息して居るもので、その大きさは獸類中で象の次ぎである。皮膚の色は大躰滑な石磐色で、銅褐色の部分もある。其れから鼻端、頸、耳緣、尾などには、僅ばかりの鬃毛が生えて居て、顏は大きく、鼻と口も亦大きい、頸は太く短く、胴は大樽を横たへたやうでありますが、肢は至て短く、尾も亦短いものであります。

河馬は群れて水中に棲息して居りますもので、その成長したものは、水の中に麥を沒してから、五分より十分闘位潜んで居ることが出來、また水中にあつ

て泳いだり潜つたりすることも出來る。其時は時々水面に鼻の尖を出して、呼吸するものでありますが勞れて來ると、餘り深くない所の水中に眠つて、時々呼吸の爲に、水面に鼻を出すのである。頓て其日も暮れて夜になると、食物を求める爲に、徐々水中から陸上に出でゝ草を喰ふのである。食物は植物性のものばかりで、決して肉食は致さぬものであります。

河馬の肉は非常に美味で、良い脂肪も澤山採れるし、其皮や牙の需要も多いので、亞弗利加でも漸次に捕壔されて、現今では其

ばか

數が少くなつたそうであります

ざうがめ（象龜）は印度アルダブラ島の產で陸棲の龜であります。この龜の最大のものになると、身長が三尺以上で、その重みが二十八貫匁以上に達するものがあります、背の甲は著しく窿くなつて居て四肢の構造が象の肢に似て居ますから象龜と云はれるのであります。食物にはバナヽ、キャベジ、青草などを與へて居ります。この室を見終りて反對の方へ行くと

第廿五號　暖室

この室は暖室でありますから、主に温帶や亞熱帶產の動物が飼はれて居ます。

たいわんざる（臺灣猿）臺灣に產するもので、內地のさるとは異り、顏の

色も赤銅色で尾も亦長い、毛は淡黄褐色で、樹上の活躍も出來るけれども岩上や平地の濶歩にも適して居る。

をながざる（尾長猿）南洋産のもので、内地の**さる**より小さい、顔は淡黒色で、毛は黒褐色である。

をまきざる（尾卷猿）南亞米利加に産する小型の**さる**で、此處に居るのは、黒味を含んだ茶褐色の毛を被つて居る。常に森林に棲ひ動作の至て敏捷なものである。

おがさはら・おほこうもり（小笠原大蝙蝠）小笠原島に産するもので、皮膚や毛色は黒色で、前肢と後肢の間には飛膜と云ふ護謨様の伸縮自在なる皮膚の

をながざる

繋ぎがあるから、飛び廻ることが出來るのである。日中は樹の枝や洞に倒まに吊り下つて居て、夜になると餌を求める爲に飛出すのであります。食物は季節により相違があるけれども、甘藷、瓜類、バナヽなどを與へて居る。

いんど・おほりす（印度大栗鼠）は印度産であつて、躰の長さは約一尺程でその尾は躰より長い大型の栗鼠であります。毛色は、肩、腰及び尾は黒色で、頭、耳、後頭、背及び外腿は濃褐色、胸腹部は黄白色を呈して居る。食物には落花生や林檎などを與へて居る。

きんかじゆうは中央及び南亞米利加に棲んで居る。猫よりも少し小さい尾の長い夜獣であるから、日中は樹の上に眠つて居て、日没から夜にかけて、樹枝の上を敏捷に徘徊して食物を求むるものである。又この獣の特異なことは、

その長い尾を樹枝に巻付けることが出來るので。時々その尾で倒まに吊り下つて、食物を喰べて居る事がある。食物には果實と菓子を與へて居る。

やまねこ（山猫）は臺灣產のもので、毛は淡青灰色に黑色の斑點がある これには肉類を食用として與へて居ます。

にしきへび（蚺蛇）は馬來半島やその群島に產する所の無毒の大蛇で、成長したるもの、平均躰長は二丈二尺位で、その重量は二十五六貫匁以上に達するのであります。

皮膚の色は黃色勝で、褐色と黑色の部とがあつて一定の斑紋を現はして居りますが、光線の反射で虹色を呈するから非常に美しく見ゆるものであります。

この室は河馬室の眞向より見初め、右へ右へと進むと次は

第廿六號　熊室

ひぐま（羆）一名**あかぐま**は北海道產で、全身濃褐色の毛で被はれて居る。成長したものは內地產の**くま**に比べると。その躰格が大きく、その性質も亦荒いのであります。この室を見てから右に向つて第二十五號室の橫を通ると、その左側に山へ登る土橋がありますから、この土橋を渡つて左の方へ登つて行きますと

第廿七號　かんがるう室

このかんがるう室の中には、かひうさぎも雜つて居ます。

おほかんがるう　はオーストラリアの産で、**かんがるう**中の一番大きなもので、毎年この園の中で兒が産れます。一躰**かんがるう**は前肢が短く、後肢の方が長くて、歩き悪くさうに思はれるけれども、地上を駈けるときには、前肢を地に付けずに、後肢と尾とで身躰を支へて居りますから、その飛躍の狀態が面白い、また兒を産むと、牝親は、その赤兒を腹の外にある袋に入れて置いて育てるのであるから、兒のある時は何時でもその兒の育つ有樣や、親が兒の世話をする有樣などが能く見られるのであります。

おほかんがるう

かひうさぎ（家兎）が澤山放してありますから、樹の伐り株の下や、小屋の中から地面の下に隧道を作つて、その中で兒を産んだり、雨や雪を凌いだりするのであります。

以上二種の食物には、根菜類と乾草、穀物などを與へて居る、此室を見終り左へ進むと

第廿八號　駱駝室

ふたこぶらくだ（雙峰駱駝）は南比比利亞、蒙古、滿洲、支那に産する反芻獸である、その背に二つの瘤があるので、亞剌比亞駱駝の瘤の一つあるものと區別することが出來るのであります。**らくだ**は何れも耕作その他の勞役に使ふ

ことが出來るので、亞刺比亞旅行譚などにあるやうに**らくだ**に騎つて亞刺比亞の砂漠を通ると云ふのは、此**ふたこぶらくだ**でなくて、瘤の一つある亞刺比亞駱駝の方を使ふのである。

らくだは何れも飼馴して勞役させることが出來るので、軍隊用に使はれることもあります。日本でも日露戰爭の時、我陸軍は戰地に於て、この**ふたこぶらくだ**を以て駱駝縱列を編成して、兵站部の輜重用に使つたことがある。其色は褐色のものと

ふたこぶらくだ

乳白色のものとが養はれて居りますが、乳白色のものは褐色の變種であります。食物は馬と同じやうに麥類、草などを與へて居る。更に左へ進むと

第廿九號　山羊柵

やぎ（山羊）今此處に居るのは朝鮮産のものばかりで、乳の澤山に採れる山羊とは違ひます。食物には甘藷と雪花菜を與へて居る。

此柵を後にして前進すると

第卅號　熊室

右の方から順に見ると

ひぐま　北海道のものと、西比利亞産のものとが居る。（第二十六號室記事參照）

ひまらやぐま　は亞細亞大陸特有の熊で、毛色は黑い、これが日本に産する熊の先祖であると云ふ説がある。俗に**つきのわぐま**とも云ふて、咽喉部にある黃白色の半月形の斑が大きいのであります。

くま（熊）は日本産で毛は黑色である。岐阜縣下で捕へられたもので、咽喉部に月の輪と稱する黃白色の斑があるが、日本産のものは一般に此斑が、**ひまらやぐま**のものより小さいのであります。

また越後産で白毛のものが一頭居る。この熊は北

く　ま

極熊とは違つて居るもので、普通のくまの皮膚が俗に云ふ**しらこ**と云ふ病的に變つたものであります。

以上の熊類は食肉類でありますから、肉を與へて養へば良いのでありますが、肉を與へなくても、養ふことが出來ますから、此處では甘藷、飴粕、雪花菜などで養ふて居ります。熊を見終りて左に進めば

第卅一號　小肉食獸室

右の方から順次に記して見るとぬくてー　とは朝鮮の方言である。朝鮮全道に蔓つて居るもので、背は茶褐色、腹の方は灰白色で、胴は瘦氣味に長く、尾は下に垂れて、その尖が黑い

頸には剛い毛が密生して居るから、頸が膨んで居るやうに見へる。顔は狐の樣に鼻尖が尖つて居て、四肢は割合に長い、耳も尖つて居て眼光鋭く、隨分危險な動物で、朝鮮では、人や家畜が負傷したり、咬殺されたりする數が非常に多いので朝鮮人は虎よりも却つてこの動物の方を怖れて居る。

あなぐま（羅）日本産で、狸位の大きさである。山林中に棲息し、多くは岩窟中に穴居して、夜になると餌を求むる爲に、穴から出て來るのであります。割合に耳と肢の短い動物であるが顔付は可愛らしい。

きつね（狐）は日本本州、四國、九州、北海道等に産する穴居の夜行動物であります。

たぬき（狸）は又**むじな**とも云つて居る。**アムール**地方から、東部亞細亞

及び日本に産するもので、其毛は古來より筆を製するに用ゐられたり、鞴の中皮に使用されたりしたものでありますが、近時はその毛皮が防寒用として、高價に外國へ輸出せらるゝ樣にもなつたので今では、野生のものが大ひに減つて仕舞つたのと、又一方には野鼠を捕食する所の有益獣でありますとに由り、保護獣となつて居るのであります。

上記の**ぬくてー**以下**たぬき**までの食物には肉類を與へて居る。

やまあらし（豪猪）は印度に普通棲んで居る所の**やまあらし**で、鬣と棘

き つ ね

毛は比較的短い種類の夜行動物であります。この獸が怒り出すと、身躰の後部に密生して居る針狀の毛を直立して、敵にその針先を向けるから、小さな敵はその權幕に恐れて逃げて仕舞ひますけれども、若し强ひて敵對すれば、必ずその針先で刺されるのであります。食物には根菜類を與へて居ります。此室を見終りて左へ進むと

第卅二號　禽室

かゝさぎ（鵲）は支那、朝鮮、臺灣、九州等に居る鳥で、かけすより少し大型である。羽は肩や腹の邊は灰白色であるが、その他の部分は黑味を含んだ青銅色である。極く馴れ易い鳥で摺餌や肉類を以て養つて居ます。次は

第卅三號　猿室

あかげざる（赤毛猿）はべんがるざるとも稱へ、印度產で、毛色は淡黃赤褐である。腰の邊はその色が濃くなつて居る。尾は割合に短いもので大抵六七寸位の長さである。次は

第卅四號　猿室

さる（第十一號室記事參照）

第卅五號　猛禽室

かささぎ

はげわし（禿鷲）は朝鮮、支那、印度から、地中海々岸邊の森林中に居る鳥で、**おほわし**位の大きさである。羽毛は概ね淡黑褐色で、頭の頂上、眼の上部、頰等には綿狀の毛があつて、頸の下の方には、襟卷狀の羽毛がある。頭、頸の中この綿狀の柔かい羽の無い部は總て裸出して居ます。

おほわし（羌鷲）は歐羅巴にも亞細亞にも棲んで居るもので、羽毛は灰色を含んだ暗褐色で、小さい哺乳類などを捕えて喰ふ猛烈な鳥である。**カムチヤツカ**から北海道で繁殖し、冬になると内地に渡つて來て、主に海岸に棲み場所を定め、魚類なども捕

しわほお

えて喰ふものであります。

をじろわし（尾白鷲）は歐洲全部、北部亞弗利加、亞細亞の大部に分布し、本邦にも棲息するもので、羽毛は大抵黃灰白色で、尾は純白色であります。

以上の鷲類には食物として獸肉を與えます。

附記

以上は觀覽なさる方の便利の爲め、本園の案内を致しますのと、觀覽後の話題の材料とを兼ねて、概略を述べたものでありますが、生活物の陳列は、常に增減の生じ易いものでありますのと、また自然陳列場所を變更することもありますから、時々增補又は改訂を行ふ積りであります。

飼養動物分類表

和名	學名	頁
	CLASS MAMMALIA 綱 哺乳類	
	Order Primates 目 猴類	
さる	*Macacus speciosus Cuv.*	21
たいわんざる	*Macacus cyclopis Swinhoe.*	69
ぶたをざる	*Macacus nemestrinus Desm.*	16
あかげざる	*Macacus rhesus Audeb.*	83
をながざる	*Semnopithecus siamensis S. & Muller.*	70
をまきざる	*Cebus vellerosus Goeff.*	70
	Order Chiroptera 目 翼手類	

おがさはらおほこうもり	*Pteropus pselaphon Lay.*	70
	Order Rodentia 目 齧齒類	
かひうさぎ	*Lepus cunicurus L.*	75
てんぢくねづみ	*Cavia cobaya Schreb.*	62
やまあらし	*Hystrix leucura Sykes.*	81
いんどおほりす	*Ratufa indica.*	71
	Order Carnivora 目 食肉類	
くま	*Ursus japonicus Schleg.*	78
ひまらやぐま	*Ursus tibetanus Cuv.*	78
ひぐま	*Ursus arctos L.*	73
たぬき	*Nyctereutes procyonoides Gray.*	80

あなぐま	*Meles anakuma Temm.*	80
きつね	*Vulpes japonicus Gray.*	80
ぬくてー	*Canis sp.*	79
しゝ	*Leo nobilis Gray.*	18
とら	*Tigris regaris Gray.*	24
へう	*Leopardus pardus L.*	25
やまねこ	*Felis bengalensis Keer.*	72
きんかじゅう	*Cercoleptes caudivolvulus Illig.*	71
	Order Perissodactyla 目 奇蹄類	
うさぎうま	*Asinus vulgaris Gray.*	20
	Order Artiodactyla 目 偶蹄類	
れいやう	*Antilope cervicapra.*	21

やぎ	*Hircus aegagrus Gray.*	77
しか	*Cervus (sika) nippon T.*	23
くわろく	*Cervus taiouanus Blyth.*	22
すいろく	*Cervus cervus swinhoii. (Sclater.)*	18
のる	*Capreolus bedfordi Thomas.*	21
ふたこぶらくだ	*Camelus bactrianus Gray.*	75
らま	*Lama glama Cuvier. & Thomas.*	17
ゐのしゝ	*Sus leucomystax Gray.*	18
かば	*Hippopotamus amphibius L.*	67
	Order Proboscidea 目 長鼻類	
いんざう	*Elephas indicus L.*	14
	Order Marsupialia 目 有袋類	

おほかんがるー	*Macropus giganteus Thomas.*	74

CLASS AVES
綱　鳥類

Subclass Carinatae
亞綱　深胸類

Order Pelecaniformes
目　鵜鷺類

うみう	*Phalacrocorax carbo L.*	40
おーすとらりあべりかん	*Pelecanus conspisillatus T.*	31
ほわいとべりかん	*Pelecanus onocrotatus L.*	31

Order Gressoriformes
目　鶴鷺類

こさぎ	*Egretta garzetta garzetta (L.)*	42
あをさぎ	*Ardea cinerea jouyi Clark.*	44

ごわさぎ	*Nicticorax nicticorax nicticorax (L.)*	42
ささごわ	*Butorides striatus amurensis Schrenk.*	46
こうのとり	*Ciconia ciconia boyciana Swinhoe.*	41

Order Anseriformes
目　雁鴨類

をながゝも	*Dafila acuta acuta (L.)*	37
よしがも	*Eunetta falcata (Georgi.)*	37
ひどりがも	*Mareca penelope (L.)*	45
ともゑがも	*Nettion formosum (Georgi.)*	44
こがも	*Nettion crecca crecca (L.)*	45
かるがも	*Polionetta poecilorhyncha zonorhyncha (Swinhoe.)*	37
まがも	*Anas platyrhyncha platyrhyncha L.*	36
をしどり	*Aix galericulata (L.)*	45

ひしくひ	*Melanonyx fabalis serrirostris (Swinhoe.)*...	38
まがん	*Anser albifrons albifrons (Scopoli.)*	38
はくてう	*Olor bewickii jankowskii (Alphéraky.)*	39
こくてう	*Chenopsis atrata (Lath.)*	39
いんどがん	*Eulabia indica (Lath.)*	39
まだらがん	*Anseranus semipalmata Lath.*	38

Order Sphenisciformes
目　人鳥類

ぺんぐいん	*Spheniscus humboldti Meyen.*	29

Order Accipitriformes
目　鷲鷹類

をじろわし	*Haliaëtus albicilla (L.)*.....	85
おほわし	*Thallasoaëtus pelagicus pelagicus (Pallas.)*...	84

はげわし	*Aegypius monachus (L.)*	84

Order Galliformes
目　鶉鷄類

からくんてう	*Meleagris gallopavo L.*	12
ほろほろてう	*Numida meleagris L.*.....	66
いんどくじゃく	*Pavo cristatus L.*	35
くじゃく	*Pavo muticus L.*.....	34
きんけい	*Chrysolophus pictus L.*	11
はくかん	*Gennaeus nycthemerus L.*	11
かうらいきじ	*Phasianus colchicus karpowi Buturlin.*.....	10
きじ	*Phasianus versicolor versicolor Vieillot.* ...	10
さんけい	*Hierophasis swinhoii (Gould.)*	9
うづら	*Coturnix coturnix japonica T. & S.*	8
やまどり	*Graphophasianus soemmerringii scintillans*	11

	Gould.	
	Order Gruiformes **目　鶴　類**	
せいけい	*Porphyrio poliocephalus (Lath.)*	47
たんちやう	*Megalornis japonensis (P. L. S. Muller.)* ...	13
くろつる	*Megalornis grus lilfordi (Sharpe.)*	29
なべづる	*Megalornis monachus (Temminck.)*	41
まなづる	*Pseudogeranus vipio (Pallas.)*	40
あねはづる	*Anthropoides virgo (L.)*	47
おーすとらりあづる	*Antigone australasiana. (Gould.)*	29
	Order Lariformes **目　鷗　類**	
おほせぐろかもめ	*Larus schistisagus Stejneger.*	32
うみねこ	*Larus crassirostris Vieillot.*	46

ゆりかもめ	*Larus ridibundus ridibundus L.*	46
	Order Pterocletiformes **目　沙鷄類**	
さけい	*Syrrhaptes paradoxus Pallas.*	60
	Order Columbiformes **目　鳩鴿類**	
きじばと	*Streptopelia orientalis orientalis (Latham.)*	61
れんじゃくばと	*Ocyphaps lophotes Temm.*	61
ちゃうしゃうばと	*Geopelia striata (L.)*	61
	Order Psittaciformes **目　鸚鵡類**	
めきしこいんこ	*Conurus canicularis (L.)*	53
こんごういんこ	*Ara macao (L.)*	61

かるかやいんこ	*Agapornis cana (Gm.)*	53
ほんせいいんこ	*Paraeornis torquata (Briss.)*	50
おほほんせいいんこ	*Paraeornis eupatrius (L.)*	62
だるまいんこ	*Paraeornis fasciatus (St. Müll.)*	50
さめくさいんこ	*Platycercus palliceps (Vig.)*	52
せきせいいんこ	*Melopsittacus undulatus Shaw.*	53
をかめいんこ	*Calopsittacus novae-hollandiae Gm.*	62
きばたん	*Cacatua galerita (Lath.)*	48
こばたん	*Cacatua sulphurea (Gm.)*	49
くるまさかあうむ	*Cacatua leadbeateri (Vig.)*	50
おほばたん	*Cacatua moluccensis (Gm.)*	5
たいはくあうむ	*Cacatua alba (St. Müll.)*	49
ももいろいんこ	*Eolophus roseicapilla (Vieill.)*	62
づぐろ、ごしき、せいがいいんこ	*Trichoglossus ornatus (L.)*	50

せうせういんこ	*Lorius garrulus (L.)*	51
づぐろいんこ	*Lorius domicella (L.)*	51
ひいんこ	*Eos rubra (Gm.)*	51
あかぼうしいんこ	*Chrysotis rhodocorytha Salvad.*	52

Order Passeriformes
目　燕雀類

こくまるがらす	*Coloeus dauricus dauricus (Pallas.)*	54
かさゝぎ	*Pica pica sericea Gould.*	82
をなが	*Cyanopica cyanus japonica Parrot.*	59
やまむすめ	*Urocissa caerulea Gould.*	59
かしどり	*Garrulus glandarius japonicus Schlegel.*	54
るりかけす	*Lalocitta lidthi (Bp.)*	55
わうてう	*Oriolus indicus indicus Jerdon.*	55
きちくわんてう	*Eulabes intermedia (A. Hay.)*	55

おほはなまる	*Graculipica nigricollis (Payk.)*	54
べにすゞめ	*Sporaeginthus amandava (L.)*	58
おほきんくわてう	*Stagonopleura guttata (Shaw.)*	57
じうしまつ	*Uroloncha domestica Flower.*	7
きんぱら	*Munia atricapilla (Vieill.)*	7
へきてう	*Munia maja (L.)*	7
あみぱら	*Munia punctulata (L.)*	7
ぶんてう	*Oryzornis oryzivora (L.)*	8
かなりや	*Serinus canarius (L.)*	7
おほかはらひわ	*Chloris sinica kawarahiba (Temmink.)* ...	7
まひは	*Spinus spinus (L.)*	7
おほましこ	*Carpodacus roseus (Pallas.)*	7
あをじ	*Emberiza spodocephala personata Temm.* ...	8
のじこ	*Emberiza sulphurata T. & S.*	8

ほゝじろ	*Emberiza cioides ciopsis Bp.*	8
こうくわんてう	*Paroaria cucullata (Lath.)*	56
ひばり	*Alauda arvensis japonica. T. & S.*	8
たいわんひばり	*Alauda gulgula sala Swinhoe.*	57
めじろ	*Zosterops palpebrosa japonicus (T. & S.)* ...	7
しろがしら	*Pycnonotus sinensis tormosae Hartert.*	57
くろひよどり	*Haringtonia psaroides nigerrimns (Gould.)*	57
めじろちめどり	*Alcippe nipalensis morrisonia Swinhoe.* ...	56
さうしてう	*Leiothrix luteus Scop.*	7
みゝじろちめどり	*Lioptila auricularis (Swinhoe.)*	57
たいくわんてう	*Dryonastes chinensis (Scop.)*	53
くろつぐみ	*Merulab cardis (Temm.)*	56
まみちゃじない	*Merula obscura (Gmelin.)*	56
しろはら	*Merula pallida (Gmelin.)*	56
あかはら	*Merula chrysolaus (Temm.)*	56

	Order Scansoriformes 目 攀木類	
ごしきざり	*Cyanops nuchalitae (Gould.)*	54
	Subclass Ratitae 亞綱 扁胸類	
	Order Struthioniformes 目 駝鳥類	
ひくひざり	*Casuarius bennetti Gould.*	65
えみ・う	*Dromaeus novae-hollandiae (Lath.)*	65
だてう	*Struthio camelus L.*	63
	CLASS REPTILIA 綱 爬虫類	
	Order Chelonia 目 龜鼈類	

りうきうはこがめ	*Cyclemys flavomarginata Gray.*	33
かろりなはこがめ	*Cistudo carolina (L.)*	34
いしがめ	*Clemmys japonica Gray.*	33
やまがめ	*Geoclemys reevesii Gray.*	33
ざうがめ	*Testudo elephantina Dun. & Bill.*	69
	Order Crccodilia 目 鰐魚類	
あめりかありげーとー	*Alligator mississippiensis Daud.*	32
しなありげーとー	*Alligator sinensis Fauvel.*	32
	Order Ophidia 目 蛇類	
にしきへび	*Python reticueatus Schn.*	72

CLASS AMPHIBIA 綱 兩棲類		
Order Urodela 目 有尾類		
さんせうゝを	*Megalobatrachus japonicus* (*Temm.*) ……	27
CLASS PISCES 綱 魚類		
Order Teleostei 目 硬骨魚類		
なまず	*Carassius auratus L.* ……	26
ふな	*Carassius auratus L.* ……	26
こい	*Cyprinus carpio L.* ……	26
ごいつご	*Cyprinus carpio L.* ……	26

上野恩賜公園動物園來觀人心得抜萃

一、動物園ヲ觀覽セントスル者ハ左ニ掲クル觀覽料ヲ納付シ觀覽券ノ交付ヲ受クベシ但シ六歳未滿ノ小兒ハ無料トス

一、十二歳以上ノ者　一人ニ付　金拾錢

二、六歳以上十二歳未滿ノ者　一人ニ付　金五錢

三十人以上團體ヲ爲シ觀覽セムトスル場合ニ於テ其代表者ヨリ請求アリタルトキハ前項ノ觀覽料金拾錢ヲ金五錢ニ金五錢ヲ金參錢ニ減額スルコトヲ得

二、小學校又ハ幼稚園ノ兒童ニシテ職員引率ノ下ニ觀覽セムトスル場合ニ於テ　豫メ申出アリタルトキハ指定ノ日ニ限リ其觀覽料ヲ免除スルコトヲ得　附添職員及使丁ニ付亦同シ　特別ノ事由アルモノニ對シ市長ハ觀覽料ヲ免除シ又ハ無料觀覽券ヲ交付スルコトヲ得

三、開園H時左ノ如シ但シ市長必要アリト認ムルトキハ開園時間ノ伸縮ヲ爲スコトアルベシ

一月、十一月、十二月　午前九時ヨリ午後四時迄

二月、十月　午前八時三十分ヨリ午後四時三十分迄
三月、九月　午前八時ヨリ午後五時迄
四月、八月　午前八時ヨリ午後五時三十分迄
五月、六月、七月　午前七時三十分ヨリ午後六時迄
十二月ハ二十八日迄トス

四、左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ市長觀覽ヲ拒絕スルコトアルベシ
一、泥醉者
二、他人ノ嫌忌スヘキ疾患アリト認ムル者
三、他人ノ嫌忌スヘキ風體ヲ爲シタル者
四、他人ニ危險ヲ及ボシ又ハ迷惑ヲ懸クル虞アリト認ムル物品又ハ動物ヲ携帶スル者
五、其他園內ノ設備ヲ毀損シ又ハ動物ニ危害ヲ加ヘタル者

東京市役所

學校生徒等觀覽ノ際注意ヲ要スル事項

東京市上野恩賜公園動物園觀覽ノ際ハ門外掲示動物園使用條例ヲ遵守セラルヘキハ勿論尙左ノ通注意アリタシ

一、入場ノ節ハ校名ヲ門衛ニ示シ學生觀覽証ヲ請求アリタシ
一、觀覽ノ際ハ教員終始附添ヒ監督アリタシ
一、入場退場觀覽人輻輳ノ際ハ暫ク待合セ閑ヲ見計ヒ便宜入出アリタシ
一、觀覽人輻輳ノ場所ニ於テ長キ連續ノ列ヲナシテ進行シ若ハ一所ニ整列シテ場所ヲ占有スル等ノコトヲ止メラレタシ
一、觀覽中ハ勿論園內ニ於テ唱歌若クハ大聲ヲ發シ又ハ自由運動ヲナスコトヲ禁セラレタシ
一、杖ヲ以テ樹木ヲ叩キ若ハ杖ヲ振ヒ瓦礫ヲ投シテ動物ヲ脅カス等ノ事ナキ樣嚴重注意アリタシ
一、園內ニ於テ中食又ハ休息ヲナシタルトキ不用トナリタル竹皮、折箱、果實皮、紙類等ハ成ル可ク一所ニ取纏メ置カレタシ

東京市役所

動物園々内案内圖

上野動物園案内奥附
定價金參拾錢

大正十四年三月三十一日印刷
大正十四年四月十八日發行

編輯兼發行者　東京市
東京府北豊島郡日暮里町字谷中本七七一

印刷者　菅野高藏
東京市淺草區松葉町八十七番地

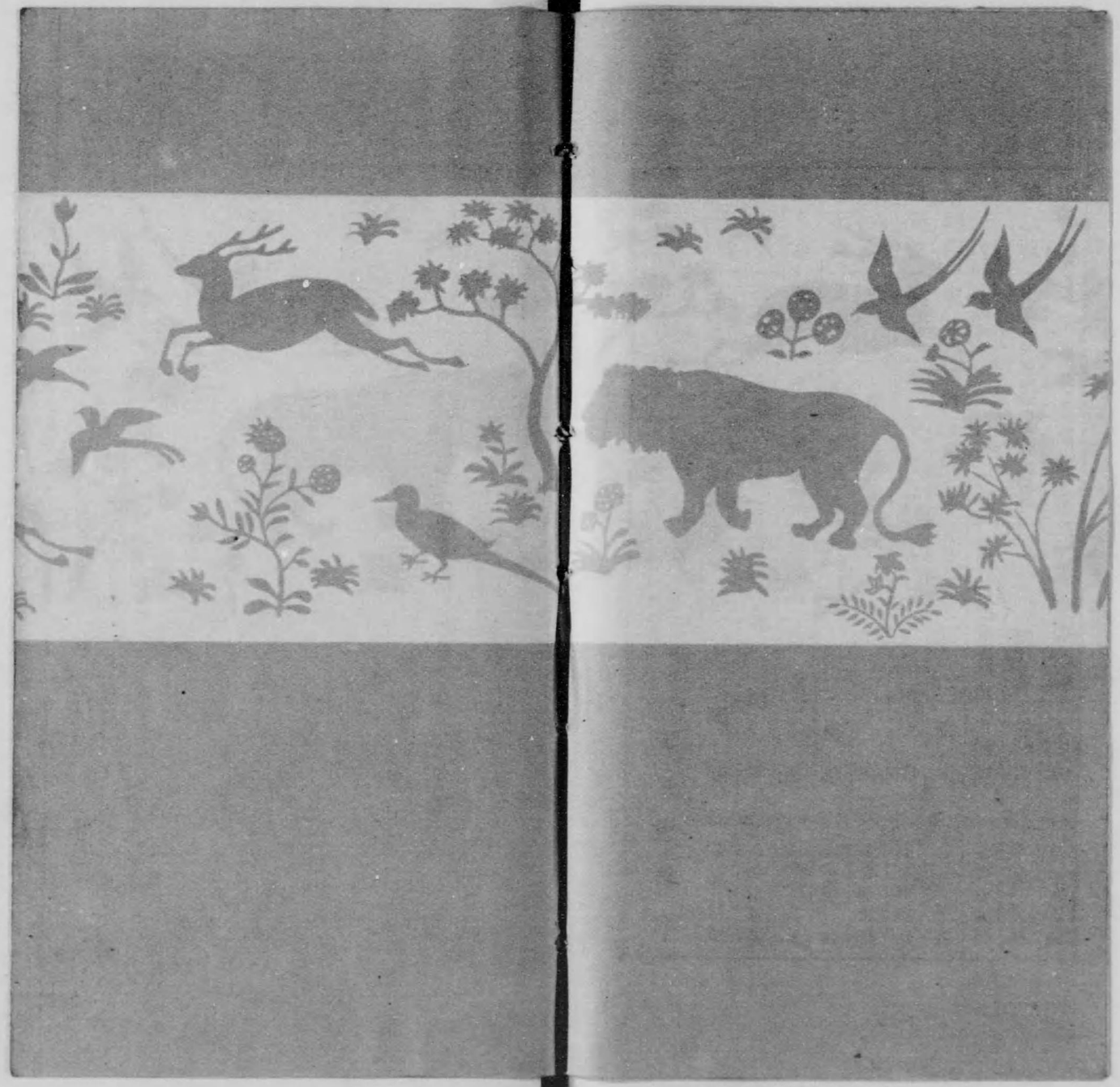
印刷所　三秀舍印刷所
東京市麹町區大手町一丁目一番地

發賣元　株式會社　三省堂

不許復製

第一號	東京市社會局編纂	授産事業に關する調査	價定金貳拾五錢
第二號	東京市社會局社會教育課編纂	市民體育資料	價定金六拾錢
第三號	帆足理一郎、大江スミ、下田歌子 述	婦人と新會社の建設	價定金參拾五錢
第四號	山桝儀重 述	KKKに就て	價定金參拾錢
第五號	權田保之助 述	民衆娯樂	價定金參拾五錢
第六號	上野陽一 述	廣告術	價定金參拾五錢
第七號	東京市公園課編纂	東京の史蹟	價定金貳圓參拾錢
第八號	東京市社會局編纂	婦人自立の道	價定金壹圓七拾錢
第九號	陸軍少將 佐藤安之助 述	支那問題	價定金參拾五錢
第十號	子爵 後藤新平氏述 ハーリー、エフ、ワード氏述	露西亞問題	價定金參拾錢

東京市
委託販賣所 神田通神保町 三省堂書店



まき上

14.5
124

終